

## (2) 社会科

### 【平成27年度「熊本県学力調査」観点別定着率】

	第1学年	第2学年
社会的事象への関心・意欲・態度	52.0%	82.8%
社会的な思考・判断・表現	61.6%	55.1%
資料活用の技能	67.2%	43.3%
社会的事象についての知識・理解	59.0%	50.8%

平成27年度の県学力調査結果から見える社会科の課題は、大きく2点あります。

1点目は、基礎基本の定着が不十分であること、2点目は、資料をもとに社会的事象の意味や特色、関連性等について考え、表現することが不十分であることです。観点としては、「知識・理解」「思考・判断・表現」が課題です。

基礎基本の確実な定着とともに、思考力・判断力・表現力の育成をめざし、授業改善を図りましょう。

言語活動の充実をもとに、思考力・判断力・表現力の育成を図った実践の一つを以下に紹介します。

#### 【甲佐町立甲佐中学校の授業改善 中山 篤 教諭の実践】

[仮説1]「生徒が主体的に学習に取り組めるように、単元の指導計画を再構築すれば学び合いを取り入れた授業を可能にするであろう。」

[仮説2]「ペア学習やグループ学習でどのように活用するかを、生徒たちが理解できる状態をつくれれば、一人一人の学習意欲を高めることができるであろう。」

これらの仮説を踏まえて、次の実践が展開されました。

- 1時間目 : 2単位時間分の学習すべき内容をノート見開き2ページにまとめる。  
「まとめ作業」と名付ける。
- 2時間目 : 作成したノートをもとに、まとめた内容を解説を加えながら発表する。  
「まとめの発表」と名付ける。  
「2時間の授業を通して、2単位時間分の授業を終える」

### (1) 授業構成の特徴

この授業構成の特徴は、「学習活動を充実させ、思考力や表現力を高め、同時に基礎基本の定着を図ることができる。」ことです。

生徒は「まとめ作業」・「まとめ発表」の学習をくり返す中で自力で重要語句も確認できるようになっていきました。単元の最後の時間に、学習内容の定着状況を確認する小テストを設けることで、より一層の基礎基本の定着を図ることができました。「まとめ作業」では、班の中で、「どこをポイントにまとめるか」「この語句は必要か」「ど

んな意味か」とやりとりがなされ、活発な言語活動を通して本時の学習の本質に迫っていました。発表の際も「質問されたらどう答えるか」などを予想しながら、発表内容の確認をする姿が見られています。

【改善を図った指導計画】

(2) 「学び合い」

右の流れで学習を進めると、生徒が自主的に、効率よく活動を進めるための手立てを見つけ始めました。グループ内での話し合いをリードする者、分担された作業をする者、次回の発表に向けた準備をする者などの役割分担をしたり、お互いに分かることや必要な情報を提供し合ったりするようになりました。また、発表活動では発表の準備や質問対策の時間をグループで協力させることで、学び合う集団の質を高めることを心がけました。さらに、発表時の聞き手を意識させることで、より分かりやすい発表を心がけるようになり、言語活動の充実も図ることができました。

3 単元の指導計画			
時限	頁	学習項目	学習内容・活動 ※言語活動の視点を明記
1	2   5	<b>①学習内容のまとめ作業</b> 1 大きく変化した私たちの生活 2 私たちの現代社会をみてみよう	①まとめる視点の確認 ②グループによる学習内容のまとめ(まとめノート作成)
2	2   5	<b>②まとめの発表</b> 1 大きく変化した私たちの生活 2 私たちの現代社会をみてみよう	①ペア・グループでの発表練習 ②全体発表 ③教師による補足・解説 ④家庭学習の提示
3	6   1 1	<b>③学習内容のまとめ作業</b> 3 少子高齢化が進む現代 4 情報化が進む現代、グローバル化が進む現代	定着を図るため、前時までの内容をテスト形式で確認する。
4	6   1 1	<b>④まとめの発表</b> 3 少子高齢化が進む現代 4 情報化が進む現代、グローバル化が進む現代	
5	2   1 1	<b>⑤基礎基本の徹底</b>	①教師の作成したプリントによる学習のまとめ ②小テスト形式プリント学習

また、発表活動では発表の準備や質問対策の時間をグループで協力させることで、学び合う集団の質を高めることを心がけました。さらに、発表時の聞き手を意識させることで、より分かりやすい発表を心がけるようになり、言語活動の充実も図ることができました。

(3) 授業実践

【公民的分野「新しい人権」の学習指導案】

右の授業において、生徒のまとめの発表の際には、質問が相次ぎ、想定外の質問に対しては、簡単にあきらめることなく、今までの学習をもとに、あるいは班員同士で協議して回答する場面が見られました。質の高い回答には自然に拍手が起こるなどの学び合う集団の姿がありました。教師は、生徒の活動でふれられなかった重要ポイントに関してコメントを加えるなど、基礎基本を押さえる配慮も十分にされていました。

5 本時の学習			
(1) 目標 近年人権として認められてきた権利の内容を理解することができる。			
(2) 評価 B基準：これまで認められた新しい人権について内容を理解し、その知識を身に付けることができる。 A基準：これまで認められた新しい人権について、具体的事例をもとに内容を理解し、知識を身に付けることができる。			
(3) 展開			
過程	時間 熊本型	学習活動	発問・指示 指導上の留意点及び評価
導入	1分	1 前時の確認	1「本時の学習について、何をまとめることになっていましたか。」 1前時に作成した、学習内容をまとめた資料(以下、資料)の要点を確認する。
	5分	2 教科書を音読し学習の内容を確認する	2「ペアで教科書の音読をします。」 2 音読をすることで、相手に聞き取りやすい声の大きさ、速さを意識させる。加えて、学習すべき内容を確認させる。
あてて 社会の変化の中でどんなことが人権として認められてきたかを説明できる。			
展開	7分	3 班ごとに資料をもとに発表準備をする。	3「資料の発表ができるように各班で準備をしてください。」 3 班の中で、発表担当になっているものを中心に、資料の説明方法を確認する。また、発表に対する質問対策を協力して行わせる。【I2によるサポート】
	30分 能動	4 資料をもとに発表・質疑応答をする。 4-1 日照権を例に資料発表1班 4-2 プライバシーの権利を例に資料発表2班 4-3 知る権利を例に資料発表3班  言語活動 (1) 事前に5人1班でまとめた資料を全体で発表する。 (2) 発表に対する質疑応答をする。	4「4つの資料を比べて、共通点やちがいを確認しなさい。」 4 分かりやすい発表を心がけさせ、理解の難しい点については、解説を加える。  ○評価 まとめ資料 要点をしばりまとめることができる。 まとめ発表 資料を活用し、具体的な事例を示しながら説明できる。
整理	7分 徹底	5 まとめ	5「発表と資料をもとに要点のプリントの穴埋めをなさい。」 5 生徒の発表をもとに、要点のまとめプリントを完成させると共に、発表で不十分だった内容を補足説明をする。【I2によるサポート】
		6 家庭学習の指示	6「自学ノートに新しい権利についてまとめてきなさい。」 6 まとめ際に、必要な語句を確認する。

B基準に達しない生徒への手立て  
要点のまとめプリント作成の進捗状況を確認しながら、それぞれに作成している資料のまとめ方等についてI2と協力して助言を行う。